

使ってよかった！

# ドリップファームに 感謝

「省力できて、トマトの  
収量が大幅アップしました！」

小金谷農園 小金谷 正良



↑ドリップファームに出会って本当によかったとおっしゃる小金谷夫妻。

低コスト、多機能使いやすいと評判のドリップファーム。直売所でトマトを中心に販売している千葉県鎌ヶ谷市の小金谷正良さんもドリップファームを利用している二人。省力化ができたうえに収量が2倍以上になったと喜んでおられます。

## トマト栽培を始めて

「トマトは作らないのですか？」

「桃太郎はありませんか？」お客様の声より、義父が始めたトマト栽培の手伝い程度だった私も、それまでの仕事を辞め、42歳から本格的にトマトを栽培するようになりました。最初はトマトの知識がほとんどなく、本を読み、勉強する毎日でした。

試行錯誤を繰り返し、桃太郎シリーズを使用して始めたリターン栽培（土から2mのところまで滑車、トマトのリターン栽培用誘引用具を使い、トマトの樹を折り返す方法）で高糖度トマトを栽培。そして、直売所のトマト人気も出てきたので、新たにもう1棟ハウスを建てる計画をしたのですが、労力的に限界があ

り、どうしても省力化の必要がありました。

## 以前は大変だった施肥・灌水

ドリップファーム導入以前の施肥は、追肥（穴肥）と1週間おきの液肥を行っていました。

追肥（穴肥）は穴あけスコップで行い、1棟終了するのに妻と二人で2〜3日はかかります。手はマメがつぶれ、腕は痛くて上がらなくなるほど。晴天時のハウス内は気温も高く、大変な重労働でした。

液肥は定置式液肥混入機を利用し、水道管の圧力（井戸ポンプ）を利用した点滴チューブで流していました。水圧の関係上、1回に2〜3本の点滴チューブしか使えず、灌水（液肥）が終了するたびに混入機のコックを

閉め、蛇口ホースを付け替えなければなりません。時間を気にしながら、液肥タンクの量を確認したり、1棟のハウスを終了するまでには何回もハウスと混入機を往復しなければならず、大変手間のかかる作業でした。

また、液肥が均一にしっかりと流れているのか不安に思っていました。

## 旧液肥機械は収量にも不満が

以前は、トマトの先端6段目（ころ）はリターン後につる先が下がってくと、どうしても茎が細くなり収量があまり出ません。また、空洞果や尻腐れが発生してしまいます。特に尻腐れはひどく、液肥で葉面散布などをして、なかなか治まらずに捨てる量もかなりあり、ほとぼりいやになってしまったこともありまし

## 地域概況



ます。以前はネギ、ニンジン、ダイコン、ホウレンソウなど四季の野菜がメインでした。

## 首都近郊の緑豊かな鎌ヶ谷市

鎌ヶ谷市は千葉県の北西部、北総台地のなだらかな緑の大地の上に広がる都市で、ナシの名産地としても有名。緑豊かな環境に囲まれている一方で、都心から25km圏内に首都近郊の住宅都市としても発展しています。

←小金谷さんは鎌ヶ谷市でトマトを中心に栽培して



## 納得のいくシステム

これらの背景をふまえ、少しでも省力化できないかと考えていました。しかし、そのころの自動液肥機械はどれも高価でとても購入する気にはなれません。お世話になっている地元の種苗店の社長に相談したところ、「他社に負けない機能があり、価格的にも安く、肥料もハイポネックス社との共同開発なので安心できる」と、タキイの液肥機械（ドリップファーム）を紹介していただきました。後日、ドリップファームシステムの説明を受け、「毎日の灌水でトマトの味が落ち、やわらかくならないか？」「1日に必要な灌水量は？」



↑ ドリップファームを調節する小金谷さん。このシステムは細かい管理ができると絶賛。

ドリップファームの点滴チューブは耐久性にすぐれ、正確かつ効率的に灌水できる。



↑ 一畝ごとに灌水時間や液肥倍率など細かい調整が可能。



↑ 重くて水に沈むほどの高品質となった「ハウス桃太郎」。



↑ 安定した肥培管理ができたからこそ、樹勢管理がうまくいき収量アップにつながった。

「ひどかった尻腐れは治まるのか?」「本当に収量が倍増するのか?」などの疑問点を尋ねました。担当者が水質調査と定植前の土壌診断による栽培施肥計画書(定植から収穫終了まで)を作成し、トマトが1日に必要な水と栄養量を教えていただきました。ドリップファームは畝にのせて時間と液肥倍率が調節でき、アフターケアもしっかりしており、これらの疑問もすべて解消。「このシステムなら、省力化できて、水耕栽培にも負けない長段どりも可能かもしれない」と思い、導入することになりました。

## 順調に進んだトマト栽培

ドリップファーム工事終了後に行った灌水テスト。以前の点滴チューブ灌水とは明らかに異なり、円を書いたように均一に灌水され、水がまるで五目石を並べたようにきれいに描かれていました。

その後、栽培中、畝によって背丈にバラつきが出たり、茎が少し細くなってきた時などは、すぐにタキイ種苗に連絡し、対策とドリップファームの調整方法を教えていただきました。おかげで、13〜14段目になっても樹は太さを保ち、先端に勢いが

あり、葉色も濃く、全然衰えません。この勢いなら、ドリップファームの力を借りて最後まで予定通りに収穫できると確信を持ち、改めてドリップファームを購入して本当によかったと実感しました。

## 「ハウス桃太郎」が「玉」に!

予定通りに19段まで収穫したトマトは、収量が以前の2倍以上に! 品種は「ハウス桃太郎」を使いましたが、どれも「玉」中心でM玉はほとんどありません。上段の収穫になるとしたがつて玉の重さも増し、誤って落としてもつぶれることがなく、原形のままでした。また、空洞果もなく、尻腐れもありませんでした。B品もほとんどなく、あつても数える程度。試しにトマトを水に入れてみると見事に沈みます。「今までのトマトとは違う!」同じハウス桃太郎とは思えませんでした。直売所のお客様の評価も大変高く、トマトを手にとって「このトマトすごく重たいですね」といっていたいたり、「なつかしいトマトの味がして、おいしかった」「トマトは今日ありますか?」と何度も買いに来てください。生産者にとって、これほどうれしいことはありません。

## 19段取りを達成!

ほかの人から「水耕と違って土壌栽培の長段どりは絶対に無理だ!」といわれましたが、実際は自分でも19段まで収穫できると思っていました。こんなに収穫できたのはドリップファームのおかげだと感謝しています。以前の栽培ではとてもここまでできません。追肥作業だけでも大変な重労働でしたから。ドリップファームを使用してから、追肥の手間は一切なく、その分、細やかなトマト管理ができたと思います。今回、ドリップファームシステムの好結果によって、もう一方のハウス(鉄骨ハウス&パイプハウス2棟)にもこのシステムを導入しました。これからも、ドリップファームと長くつき合っていきたいと思っています。



↑ 自宅前の直売所では、常連のお客さんが電話予約してくるほどの人気。